

10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (四国)		-	-	-
		商店街（事務局長）	来客数の動き	・自然災害等に起因する臨時休業や物流機能の低下により、物販、サービス、飲食共に売上にマイナスの影響はあるものの、人の動きは活発で景気の底堅さを感じられる。中でもコト消費を絡めたサービスや飲食は好調であるが、新規の競合店も増えており、話題性や質を落とさない努力が今まで以上に必要になっている。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・3か月前と比較すると前年比の売上金額や、客数が多少良くなっている。一方でサービス業は週末の天候等に左右されやすく不確定な部分がある。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	販売量の動き	・平成30年7月豪雨被害からやっと流通が元に戻ってきている。販売も心配していたほどの落ち込みはなかった。
		一般小売店〔書籍〕（営業担当）	販売量の動き	・店頭売上は横ばいだが、外商売上は受注件数が増加しており、全体の売上は前年同月比でプラスになっている。
		衣料品専門店（経営者）	単価の動き	・今月は天候、気温に比較的恵まれ、秋服物が例年に比べて、販売量、単価共に高かった。台風24号に見舞われて1日休業したが、それでも前年比増加となった。
		乗用車販売業（営業担当）	販売量の動き	・新型の発表はなかったが、当初の予定より来客数・販売台数が良い。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・中間決算に向けて大掛かりなイベントを実施した結果、受注台数は前年比で大幅にアップした。
		乗用車販売店（役員）	単価の動き	・新型高級車の販売動向や高級車専門店の改修に伴う客の反応が良い。
		観光型旅館（経営者）	販売量の動き	・四国も平成30年7月豪雨などの影響で、全体的にマインドが余り良くないが、それなりに客が来ており、販売量もある程度伸びている。
		通信会社（技術）	販売量の動き	・販売量が連続して右肩上がりの状態を維持できている。
		通信会社（営業部長）	販売量の動き	・販売数が3か月前に比べて23%増加している。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・7月の終わりにオープンした県市合築の図書館の好影響が、かなり引き続いている。また、9月上旬に行った、商店街全体を使ったイベントや大道芸イベントも集客効果があり、いい傾向が続いている。
		一般小売店〔酒〕（販売担当）	販売量の動き	・9月は連休が多く行楽費に支出するため、平日の繁華街への外出や外食を控える傾向がある。
		百貨店（企画担当）	お客様の様子	・高級時計等の販売は好調だが、婦人服などの売上が余り伸びておらず、全体として、余り良いとはいえない。
		百貨店（営業統括担当）	販売量の動き	・台風による月2回の臨時休業の影響が大きく、来客数、売上共に前年割れしている。衣料品だけでなく、高価格帯商品の売上も前年マイナスであるが、物産展の会期延長により食品の売上は拡大している。
		百貨店（販売促進）	単価の動き	・雑貨アイテムや初秋物に動きがあるものの、前年に比べて美術などの高額品の動きが鈍い。
		スーパー（企画担当）	来客数の動き	・春先からの価格上昇は続いているが、台風などの影響で青果物の価格が安定せず、買上げ数量が伸びない。
		スーパー（財務担当）	来客数の動き	・今月は台風の影響がかなり大きい。
		コンビニ（店長）	単価の動き	・競合店の増加により客数は微減だが客単価はプラス5%となっている。
	コンビニ（総務）	来客数の動き	・客数は前年割れ傾向が続いている。辛うじて客単価の増加で前年の売上を上回っている。	
	コンビニ（商品担当）	販売量の動き	・10月からのたばこ増税に向け、今月の販売量増を見込んでいたが、予想したほど販売が伸びていない。	
	衣料品専門店（経営者）	単価の動き	・景気は余り良くないのではないかと、ずっと、いいか悪いか分からない状態が続いている。来客数の動きも少なく、販売単価も下落している。	
	衣料品専門店（営業責任者）	販売量の動き	・天候不良による客数減が響き、引き続き売上が大幅に悪化している。特に土日に天候が悪い日が多く、気温が低下してきてもなかなか売上が改善していない。	

	その他小売 [ショッピング センター] (副 支配人)	来客数の動き	・衣料品の売上は店舗ごとにばらつきが大きく、業種全体として良いとはいえない状況が続いている。
	タクシー運転手	お客様の様子	・例年9月は、売上、客数も増加し、タクシーチケットの使用量も増える時期だが、今年は横ばい状況が続いている。週末の天候不順が1つの要因で、イベントがなくなり、観光客も少なかった。
	通信会社 (支店 長)	販売量の動き	・特段の変化はない。
	競輪競馬 (マ ネージャー)	販売量の動き	・イベントや人気レースの実施による売上額の増加はあるものの通常の売上額は横ばいで推移している。
	設計事務所 (所 長)	販売量の動き	・公共の新築物件は減ったが、民間の新築が増えてきている。
	商店街 (代表 者)	お客様の様子	・社会の仕組み、経済の仕組み、流通業界の仕組みの全てが大きな変革期に入っており、既存の仕組みや発想で単純に乗り越えることができない時代にある。
	スーパー (店 長)	それ以外	・景気は徐々に上向きできていたとが、ここに来て、連続する台風、北海道胆振東部地震の影響があり、商品の供給が十分でなく、景気の上昇に水を差したような形になった。
	家電量販店 (店 員)	販売量の動き	・元々閑散期ではあるが、それを加味しても販売量が減少している。
	都市型ホテル (経営者)	来客数の動き	・景気はそれほど悪くなっていないが、観光客、一般の旅行客共に災害などの影響で出控えており、宿泊客が減少している。県内一般の景気動向はまずまずではないかと思うが、来客数が減っている。
	旅行代理店 (営 業担当)	お客様の様子	・平成30年7月豪雨及び2度の台風、北海道胆振東部地震の影響により、客の旅行需要が低下している。
	x コンビニ (店 長)	来客数の動き	・前年は、愛媛国体によって、減少傾向の中でも多少の歯止めがかかっていたのだと分かるほど、客数減少が止まらない。
企業 動向 関連 (四国)	-	-	-
	建設業 (経営 者)	競争相手の様子	・平成30年7月豪雨、8、9月の台風により、インフラの災害調査や設計等の業務が急増し、業務処理能力を超える状況が続いている。地域業界全体が繁忙状態であり、仕事量増に伴い、景気はおのずと良くなってきている。
	輸送業 (経営 者)	取引先の様子	・順調に推移しているが、良いときと悪いときの差が両極端である。
	輸送業 (支店 長)	受注量や販売量 の動き	・移転等の案件が順調に獲得できており、また、平成30年7月豪雨の影響で不通になっていたJR貨物線の回復によりコンテナ輸送が回復しつつある。
	農林水産業 (職 員)	取引先の様子	・卸売市場の情勢は、引き続き入荷減、単価高で推移しているが、この状況が長引いていることから荷動き自体は鈍化している。特に、入荷量が回復したものは単価が前年割れするなど、販売環境は悪化している。量販店も元気がなく特売等の仕掛けも少ない状態である。
	繊維工業 (経営 者)	受注量や販売量 の動き	・前月までは暑さの関係で、夏物商材が順調に推移した。前年、東京都内に小売店を開店したが、本社の小売ショップ共々、高額品の売上が順調である。
	木材木製品製造 業 (営業部長)	受注量や販売量 の動き	・戸建の住宅着工戸数が思ったほど伸びておらず、受注量が前年に比べて少ない。消費税の引上げの影響を期待したが余り効果がない。
	化学工業 (所 長)	受注量や販売量 の動き	・猛暑の影響で夏関連商品向けは堅調であるが、行楽地向けは落ち込んでおり、トータルで見ると伸びていない。
	鉄鋼業 (総務部 長)	受注量や販売量 の動き	・前月同様、主力造船関係の受注は順調であるが、人手不足により出荷売上が伸びていない。
	電気機械器具製 造業 (経理)	受注量や販売量 の動き	・製品の販売量が、3か月前と比べておおむね同等である。製品により多少の増減はあるものの、全体的には安定的な出荷が続いている。市場の情報にしても特段のトピックはない。
	輸送業 (営業)	受注量や販売量 の動き	・第1四半期は天候も良かったが、第2四半期は天候不順が続き一般消費財の動向も鈍化したことから取扱物量が減少し、売上高も低迷した。例年に比べ西日本に接近あるいは通過する台風が多くトラックの欠便が多く出たことも売上低下に大きく作用している。
	公認会計士	取引先の様子	・今月の関与先企業の決算書、あるいは試算表等を分析すると、ほとんどの企業が対前年度で変化がない。

	パルプ・紙・紙 加工品製造業 (経営者)	受注価格や販売 価格の動き	・平成30年7月豪雨や台風、北海道胆振東部地震に加え、原油価格の高騰、パルプの高騰と、値上がりが続く。さらに、運賃の値上げ、外国人観光客の減少などが懸念され、採算が悪くなると同時に、売上も減少している。
	電気機械器具製 造業(経営者)	受注量や販売量 の動き	・太陽光発電については非常に難しい条件でしか受注ができず、段々受注量も少なくなっている。
	建設業(経営 者)	受注量や販売量 の動き	・官民共に、受注が思うようには伸びない。
	金融業(副支店 長)	取引先の様子	・天災が続いていること等の影響で、工事完了遅れや入金遅れが増加している。
	x	-	-
雇用 関連			
(四国)	人材派遣会社 (営業担当)	求職者数の動き	・求職者が次の仕事の心配をすることが少なく、転職に向けて動く人が多くなっている。
	人材派遣会社 (営業)	採用者数の動き	・ハローワークに求人を出しても、条件に合う人材が確保できない。派遣会社に問い合わせても必要な人員が充足できていない。やるべき業務が滞ってしまい成果が上がらないことで、企業の経営は悪化している。
	新聞社[求人広 告](担当者)	それ以外	・広告営業を通じて、景気が良いと思う場面が本当に少ない。
	職業安定所(職 員)	周辺企業の様子	・社員を募集しても応募がないので、退職者の補充ができず困っているという話が聴かれる。
	職業安定所(求 人開発)	それ以外	・8月の有効求人倍率は1.54倍で、3か月前と比べて0.15ポイント増加しているが、6か月前と比べると、0.08ポイント減少しているため、景気は変わらない。
	民間職業紹介機 関(所長)	周辺企業の様子	・子供服、玩具店では以前と比較して、明らかに来店客数が減少している。少子化が叫ばれて久しいが、上記の業態が一番最初に打撃を受けている。今後は全業種に影響してくるのではないが。
	人材派遣会社 (営業担当)	求人数の動き	・派遣に対する求人が少し減少している。工場の求人も落ち着いている。
	求人情報誌(営 業)	求人数の動き	・求人数が高止まりのまま、改善策が見いだせていない企業が多い。特に福祉、建築・土木関係での人手不足は深刻で、そのため景気は悪くなっている。
	学校[大学] (就職担当)	雇用形態の様子	・短期的には、平成30年7月豪雨や北海道胆振東部地震などの被害により自粛ムードが生じており、これが景気にマイナスの影響を及ぼしている。
	x	-	-